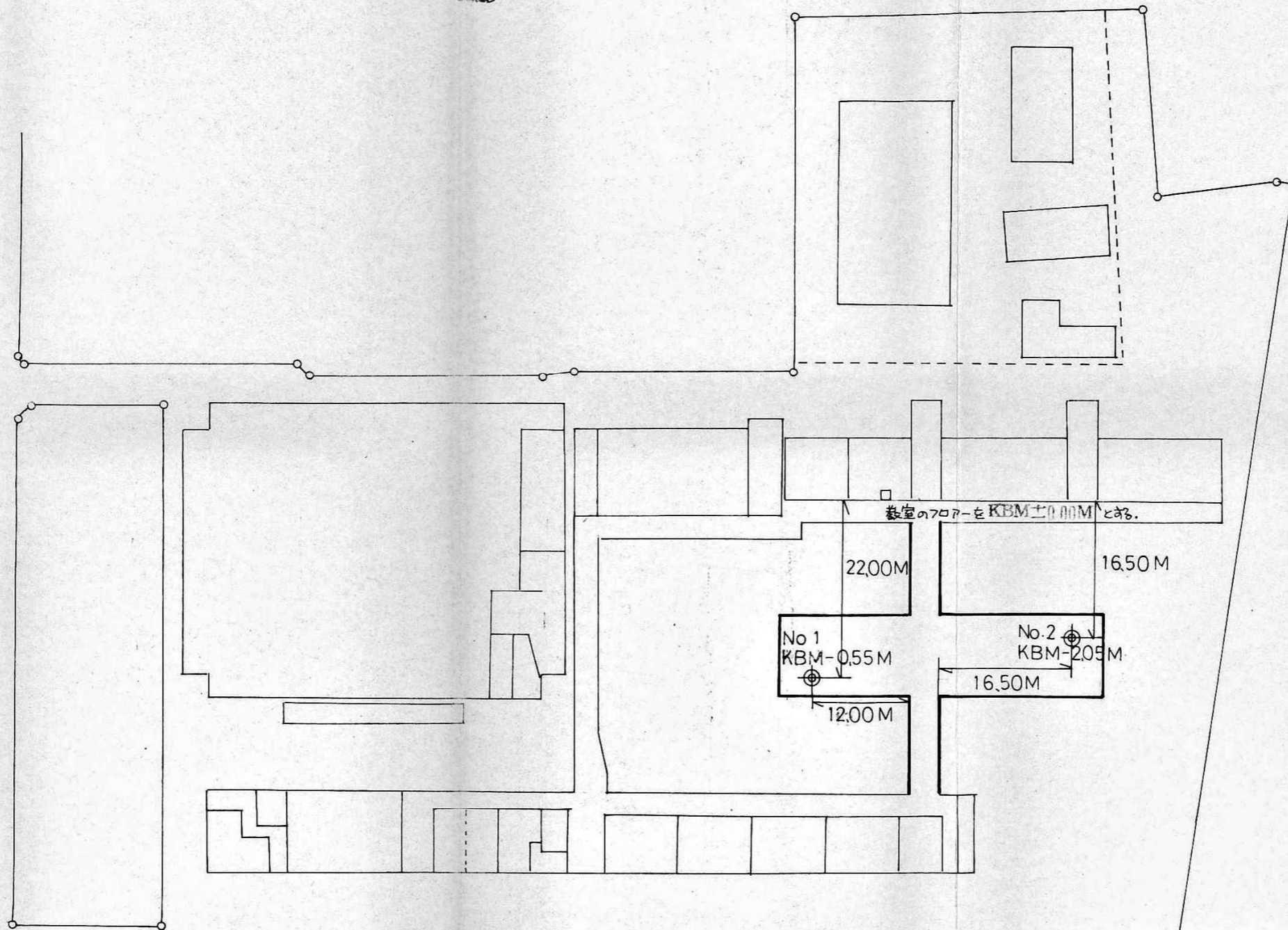


調査地点位置図

縮尺 1/500



調査地 高浜市高浜町石神42-2

調査年月日 昭和59年4月12日~59年4月13日

標高 KBM-0.55 M 孔内水位 GL-8.10 M 技術者

標高	層厚	柱状図	色調	地質名	観察	相對密度	相對稠度	現位置試験深度 m	標準貫入試験							試料					
									深度 m	N 値 回/cm	10cm毎の打撃回数			N 値						採取法	採取深度 m
											10cm	20cm	30cm	0	10	20	30	40	50		
1				黄土	土質は砂質土に於て構成之れシルト分が混入				1.15	7/33	2	2	3								1
2	1.90	1.90		砂質シルト	含水量中位、砂は細砂	軟			2.15	4/37	2	13	8								2
3	3.20	1.30		砂	粒子不均一				3.15	11/30	3	3	5								3
4	3.80	0.60		粗砂	粒子不均一、所々にφ=2.25mmの細砂混入	中位			4.15	20/30	6	7	7								4
5				粗砂	所々にφ=2.25mmの細砂混入	中位			5.15	22/30	6	7	9								5
6				粗砂		中位			6.15	19/30	5	6	8								6
7	6.90	2.90		砂質シルト	含水量中位、砂は細砂				7.15	15/30	5	5	5								7
8	7.20	0.90		粗砂	粒子不均一、所々に少量の細砂混入	中位			7.15	7/31	2	2	3								8
9	8.05	0.85		粘土質シルト	含水量中位				8.15	7/31	2	2	3								9
10	8.80	0.75		粗砂	粒子不均一、所々にφ=2.25mmの細砂混入	中位			9.15	43/30	11	14	18								10
11				粗砂	所々にφ=2.25mmの細砂混入	中位			10.15	32/30	10	10	12								11
12				粗砂	若干のシルト分混入	中位			11.15	27/30	8	9	10								12
13				粗砂		中位			12.15	31/30	9	10	12								13
14				粗砂		中位			13.15	31/30	8	11	12								14
15				粗砂		中位			14.15	23/30	8	8	7								15
16				粗砂		中位			15.15	26/30	7	9	10								16
17	16.70	7.90		粗砂	φ=2.25mmの範囲内、粗砂主体(max=20%程)	極密			16.15	26/30	7	9	10								17
18	18.00	1.30		粗砂	粒子不均一、所々にφ=2.25mmの粗砂混入	極密			17.15	51/30	15	18	18								18
19				粗砂	所々にφ=2.25mmの粗砂混入	極密			18.15	36/30	11	11	14								19
20				粗砂	若干のシルト分混入	極密			19.15	33/30	10	11	12								20
21				粗砂		極密			20.15	40/30	11	14	15								21
22				粗砂		極密			21.15	44/30	14	14	16								22
23				粗砂		極密			22.15	45/30	12	15	18								23
24				粗砂		極密			23.15	44/30	14	14	16								24
25	25.45	7.45		粗砂		極密			24.15	36/30	10	12	14								25
26				粗砂		極密			25.15	33/30	11	11	11								26

▽ GL-8.10 M

(16)

調査地 高浜市高浜町石神 42-2

調査年月日 昭和59年4月9日~99年4月10日

標高 KBM-2.05 M

孔内水位 GL-6.90 M

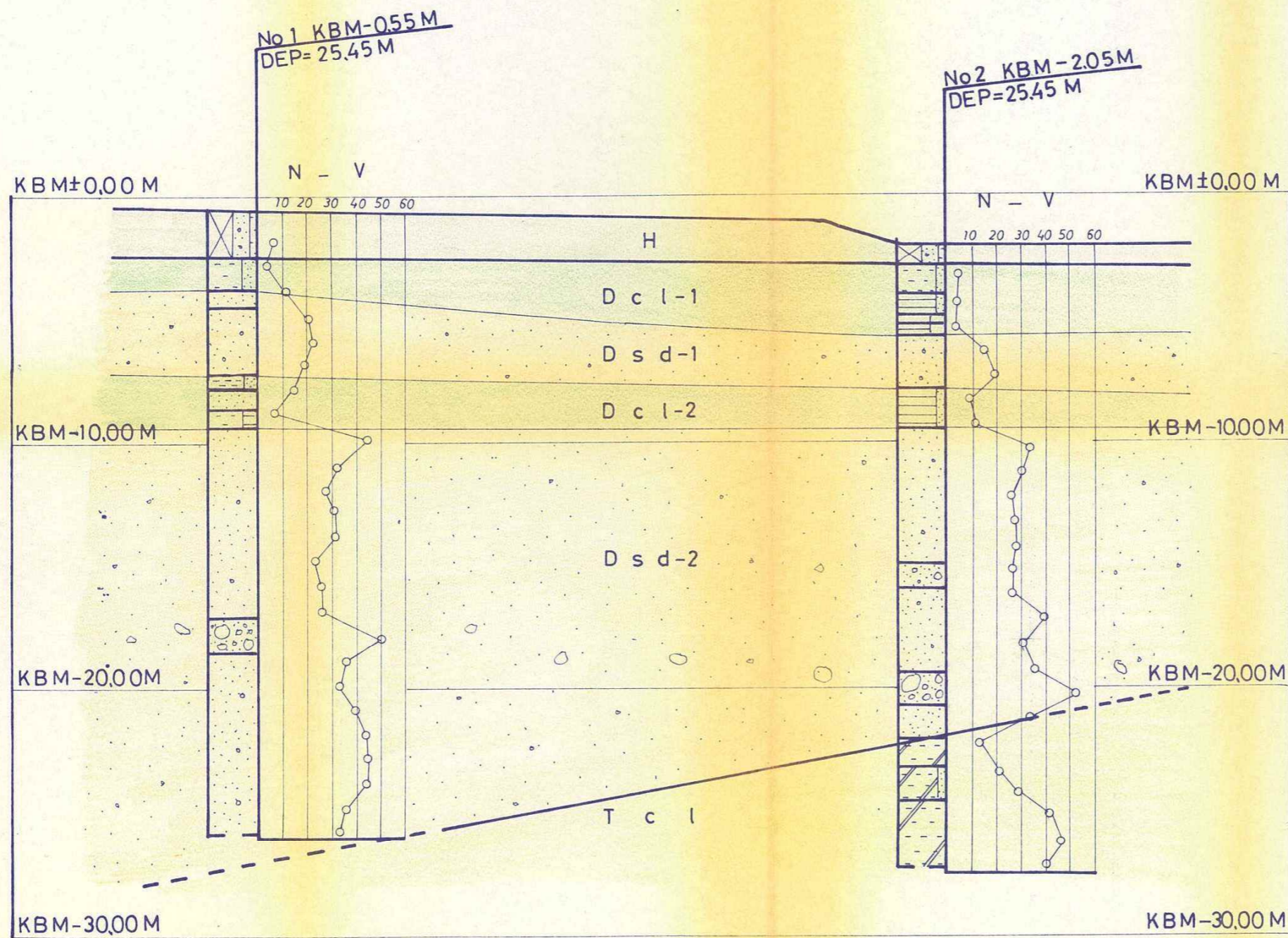
技術者

標尺	標高	深	層厚	柱状図	色調	地質名	観察	相対密度	相対稠度	現位置試験深度 m	標準貫入試験						試料										
											深度 m	N 値 回/cm	10cm毎の 打撃回数			N 値						採方	取法	採取深度			
m	m	m	m							m	m	回/cm	10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50	60	不攪乱	攪乱	m		
1	-2.85	0.80	0.80	X	茶褐色	盛土	土質は砂質土による構成でシルト分少量の混入。所々に若干の細砂点在。					1.15	5/32	2/10	2/12	1/6											1
2	-4.05	2.00	1.20	-	黄褐色	砂混シルト	含水量中位。砂は細砂。		中位			2.15	4/30	2/16	1/17	1/17											2
3	-4.85	2.80	0.80	-	褐色	砂混粘土	含水量中位。砂は細砂。					2.45	4/30	2/16	1/17	1/17											3
	-5.25	3.20	0.40	-	淡黄褐色	砂	粒子不均。					3.15	4/31	2/17	1/16	1/13											3
	-5.75	3.70	0.50	-	褐色	砂質粘土	含水量中位。砂は細砂。					3.45	4/31	2/17	1/16	1/13											3
4				-	灰		粒子不均。		中位			4.15	15/30	4	5	6										4	
5				-		粗砂	所々にφ=2~5%の細砂少量点在。					4.45	15/30	4	5	6										4	
6				-	淡黄褐色							5.15	20/30	6	7	7										5	
	-7.95	5.90	2.20	-								5.45	20/30	6	7	7										5	
7				-	褐色	砂混粘土	含水量中位。砂は細砂。GL-6.90m付近砂層には含む。		硬			6.15	9/30	2/13	3/17	4											6
	-9.55	7.50	1.60	-								6.45	9/30	2/13	3/17	4										6	
8				-	黄褐色		粒子不均。少量の細砂混在。		密			7.15	12/30	2	4	6											7
				-								7.45	12/30	2	4	6											7
9				-	黄褐色		所々にφ=2~5%の細砂少量点在。					8.15	34/30	11	12	11											8
				-								8.45	34/30	11	12	11											8
10				-	黄褐色		所々にφ=2~5%の細砂少量点在。若干のシルト混入。					9.15	31/30	11	11	9											9
				-								9.45	31/30	11	11	9											9
11				-	黄褐色				中位			10.15	26/30	7	9	10											10
				-								10.45	26/30	7	9	10											10
12				-	黄褐色							11.15	28/30	8	10	10											11
				-								11.45	28/30	8	10	10											11
13	-15.05	13.00	5.50	-	淡茶色							12.15	29/30	8	10	11											12
				-								12.45	29/30	8	10	11											12
14				-	黄褐色	礫混粗砂	粒子不均。所々にφ=2~5%の細砂少量点在。					13.15	29/30	8	10	9											13
	-16.1	14.05	1.05	-	黄茶褐色							13.45	29/30	8	10	9											13
15				-	黄褐色		所々にφ=2~5%の細砂少量点在。					14.15	29/30	6	10	11											14
				-	黄褐色							14.45	29/30	6	10	11											14
16				-	黄褐色		若干のシルト混入。		密			15.15	40/30	11	13	16											15
				-	黄茶褐色							15.45	40/30	11	13	16											15
17	-19.55	17.90	3.45	-	黄褐色							16.15	31/30	8	9	14											16
				-	黄褐色							16.45	31/30	8	9	14											16
18				-	黄褐色							17.15	36/30	8	11	17											17
				-	黄褐色							17.45	36/30	8	11	17											17
19				-	黄褐色	砂礫	φ=2~10%の細砂混在。主体(max=30%程)は粗砂。		極密			18.15	53/30	11	19	22											18
	-20.85	18.80	1.30	-	黄褐色							18.45	53/30	11	19	22											18
20				-	黄褐色	細砂	粒子不均。所々にφ=2~5%の細砂少量点在。若干のシルト混入。		密			19.15	33/30	9	11	13											19
	-22.20	20.15	1.35	-	黄褐色							19.45	33/30	9	11	13											19
21				-	青褐色	固結シルト	含水量中位。		硬			20.15	13/30	5	4	4											20
	-23.35	21.30	1.15	-	暗茶褐色		所々に細砂混在。					20.45	13/30	5	4	4											20
22				-	暗茶褐色	砂混固結シルト	含水量中位。砂は細砂。		硬			21.15	22/30	7	8	7											21
				-	暗茶褐色							21.45	22/30	7	8	7											21
23	-24.75	22.90	1.40	-	暗茶褐色		含水量非常に少ない。					22.15	29/30	8	10	11											22
				-	暗茶褐色							22.45	29/30	8	10	11											22
24				-	黄褐色	固結シルト	所々に若干の細砂混在。		極密			23.15	42/30	10	15	17											23
				-	黄褐色							23.45	42/30	10	15	17											23
25	-25.50	25.45	2.95	-	黄褐色							24.15	46/30	12	17	17											24
				-	黄褐色							24.45	46/30	12	17	17											24
26				-	黄褐色							25.15	40/30	11	14	15											25
				-	黄褐色							25.45	40/30	11	14	15											25

(17)

地質推定断面図

縮尺 1/200



凡例

- | | |
|-------|-------------|
| H | 盛土 |
| Dcl-1 | 第四紀上部洪積粘性土層 |
| Dsd-1 | 第四紀上部洪積砂質土層 |
| Dcl-2 | 第四紀下部洪積粘性土層 |
| Dsd-2 | 第四紀下部洪積砂質土層 |
| Tc1 | 第三紀粘性土層 |

II - 2. ボーリング結果

調査地を構成している地層は、第三紀鮮新世に形成された常滑層群を基底とし、上位に第四紀洪積世に形成された碧海層が分布している。

次に、ボーリング2ヶ所より明らかとなった地盤構成は、巻末の地質柱状図及び地質推定断面図に示した通りで、主に碧海層よりなるが、№2地点では常滑層群が分布している。

碧海層は、主に砂質土層よりなるが、上層部に層厚 = 1.6 m ~ 3.9 m 程の粘性土層及び下層部に層厚 = 1.30 m 程の砂礫層を介在している。

常滑層群は、粘性土層より構成されている。

なお、表層部 (KBM - 2.50 m 以浅) には盛土がなされている。

以下、各層の土性及び強度について述べる。

◎ 盛土 - H - (KBM - 2.50 m 以浅で分布)

この盛土は、シルト分を多量に混入した粒子不均一な砂で、所々に若干の細礫を点在している。

N 値 = 7 を示している。

◎ 第四紀洪積上部粘性土層 - D e 1 - 1 -

(KBM - 2.50 m ~ KBM - 5.50 m 附近で分布)

土性は、含水量中位なシルト ~ 粘土で、所々に細砂を混在している。

N 値 = 4 ~ 5 を示す相対稠度「軟」~「中位」な地盤をなす。

◎ 第四紀洪積上部砂質土層 -Ds d-1-

(KBM-5.50m~KBM-7.00m 附近で分布)

土性は、粒子不均一な粗砂で、所々に $\phi = 2\% \sim 5\%$ の細礫を点在している。

N 値 = 15 ~ 20 を示す相対密度「中位」な地盤をなす。

◎ 第四紀洪積下部粘性土層 -D c l-2-

(KBM-7.00m~KBM-9.50m 附近で分布)

土性は、含水量中位なシルト~粘土で、所々に細砂を混在している。

N 値 = 7 ~ 12 を示す相対稠度「中位」~「硬」な地盤をなす。

◎ 第四紀洪積下部砂質土層 -Ds d-2-

(No.1: KBM-9.50m 以深)

(No.2: KBM-9.50m~KBM-22.00m 附近で分布)

本層は、中間部の砂礫層を境に、上部は粒子不均一な粗砂主体、下部は粒子やや均一な細砂主体となる。

土性は、上部の粗砂部では所々に $\phi = 2\% \sim 5\%$ の細礫を点在し、下部の細砂部では若干のシルト分及び細礫を混えている。

N 値 = 23 ~ 43 を示す相対密度「中位」~「密」な地盤をなす。

なお、砂礫部では $\phi = 2\% \sim 10\%$ の亜円~亜角礫が主体 ($max = 30\%$ 程) で、礫間は粗砂によって充填され、N 値 = 51

～52を示している。

◎ 第三紀粘性土層 - Tcℓ -

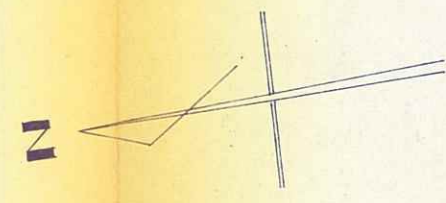
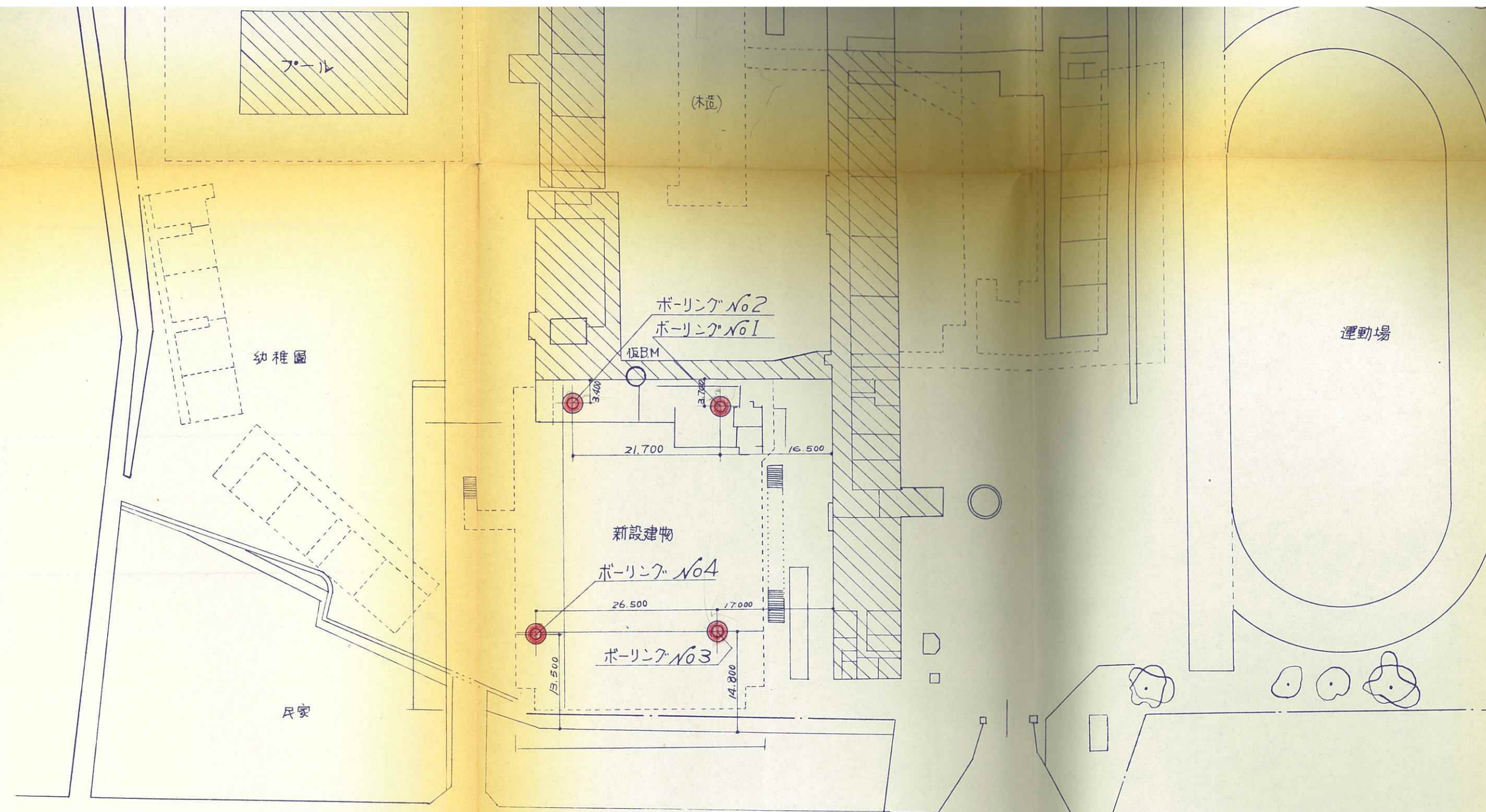
(№2 : KBM-2 2.00 m 以深で分布)

土性は、固結状を呈したシルトで、所々に若干の細砂を混在している。

N 値 = 13 ~ 46 を示す相対稠度「硬」～「極堅」な地盤をなす。

○ 地下水位について

地下水位については、ボーリング孔内の泥水位を測定した所 GL-6.90 m ~ GL-8.10 m で確認されたが、掘削する場合は季節的変動等が考えられるため、十分な配慮が必要であろう。



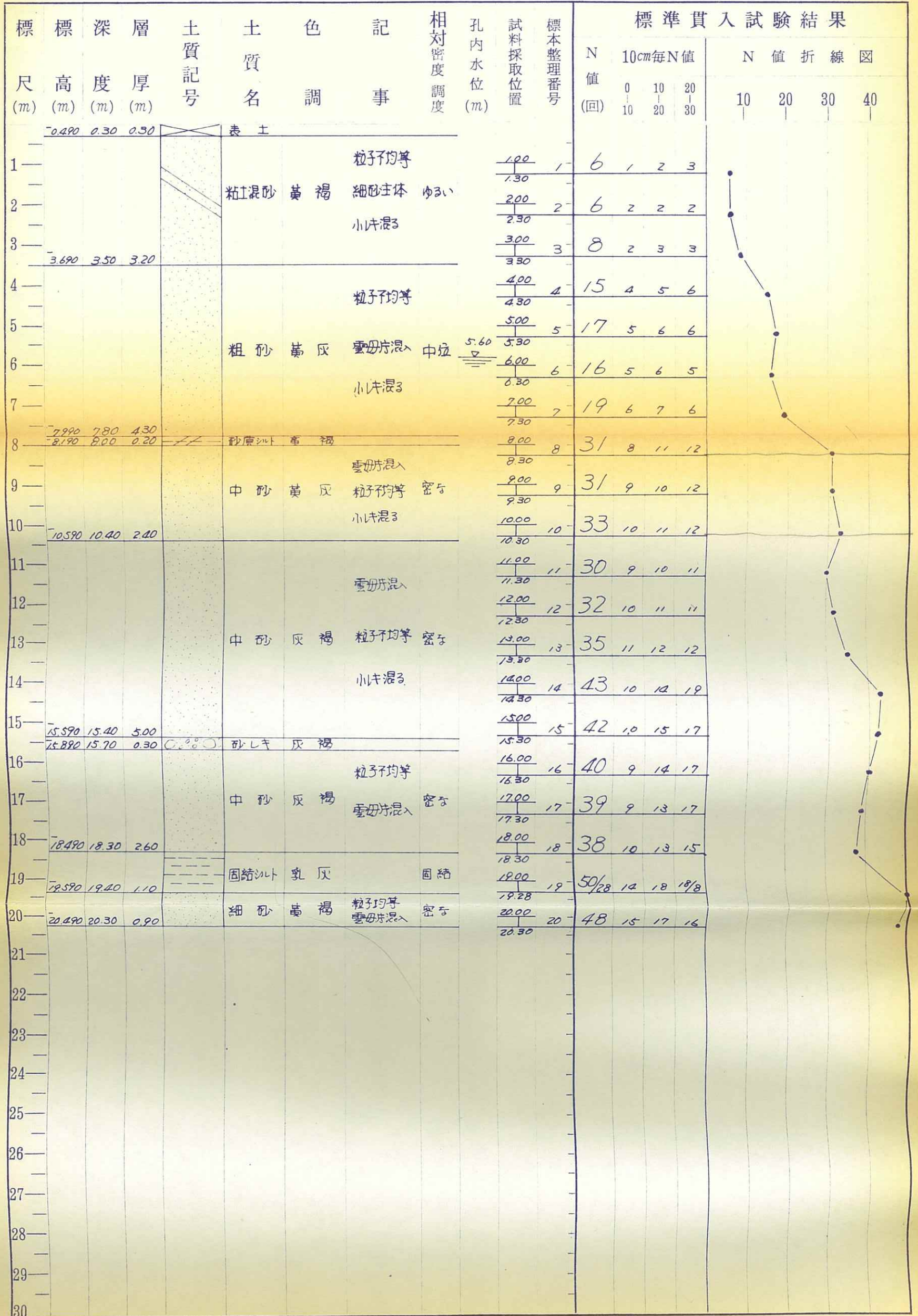
土質柱状断面図

調査名 高浜小学校体育館新築敷地
地質調査

発注者
調査地名 愛知県碧海郡高浜町
調査期間 昭和45年5月 日~昭和45年5月13日
標高 -0.190 基準 仮B.M
調査内容 深度 20.30 m 口径 66 mm
併行調査

調査位置 No. / 孔

調査実施者



711

土質柱状断面図

調査名 高浜小学校体育館新築敷地
地質調査

調査位置 No. 3 孔

発註者

調査地名 愛知県碧海郡高浜町

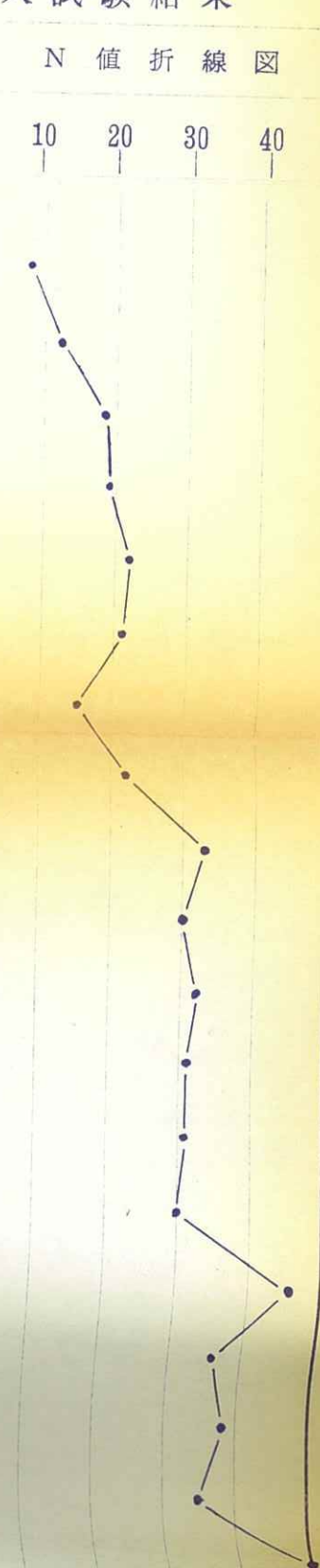
調査期間 昭和45年5月8日~昭和45年5月12日

標高 -0.305 基準 仮B.M

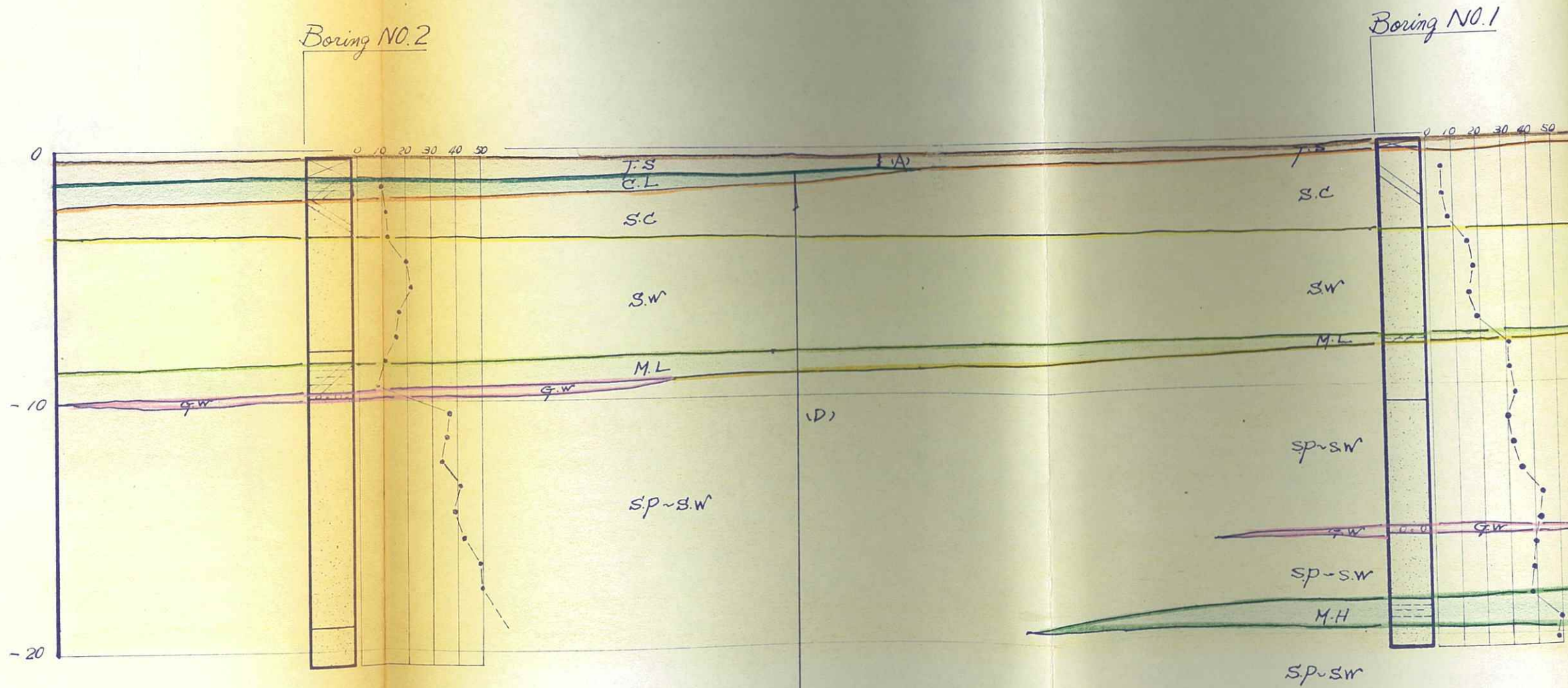
調査内容 深度 20.24 m 口径 66 mm
併行調査

調査実施者

層厚 (m)	層高 (m)	層深 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相對密度	孔内水位 (m)	試料採取位置	標本整理番号	標準貫入試験結果					
											N 値 (回)	10cm 毎N 値			N 値折線図	
											N	0	10	20	30	40
0.30	0.605	0.30		表土												
1.20	1.805	1.50		粘質粘土	茶褐		中位		1.00	1	8	2	3	3		
0.90	2.705	2.40		粘質砂	茶灰		中位		1.30	2	12	3	4	5		
						粒子均等			2.30	3	18	6	6	6		
									3.00	4	19	6	6	7		
						砂	黄灰	雲母片混入	4.30	5	22	6	8	8		
								小片混入	5.30	6	21	6	7	8		
									6.50	7	15	6	5	4		
0.50	8.105	7.80		粘質粘土	黄灰				7.00	8	22	9	7	6		
						粒子均等			8.30	9	33	10	10	13		
									9.30	10	30	9	10	11		
						粗砂	黄灰	雲母片混入	10.30	11	32	9	10	13		
									11.30	12	31	9	10	12		
									12.00	13	31	9	10	12		
									12.30	14	30	9	10	11		
0.80	15.205	15.40		砂	黄灰	φ3~5mm 最大φ70%	密实		14.00	15	46	13	15	18		
								小片混入	15.30	16	36	9	13	14		
						中砂	黄灰白	雲母片混入	16.30	17	38	10	13	15		
1.00	17.805	18.50		細砂	黄灰白	雲母片混入	密实		17.00	18	35	10	12	13		
0.80	19.605	19.30		腐植土	黑褐		固結		18.30	19	50/14	26	24/2			
1.00	20.605	20.30		粘土	青灰		固結		19.14	20	50/24	13	21	14/2		

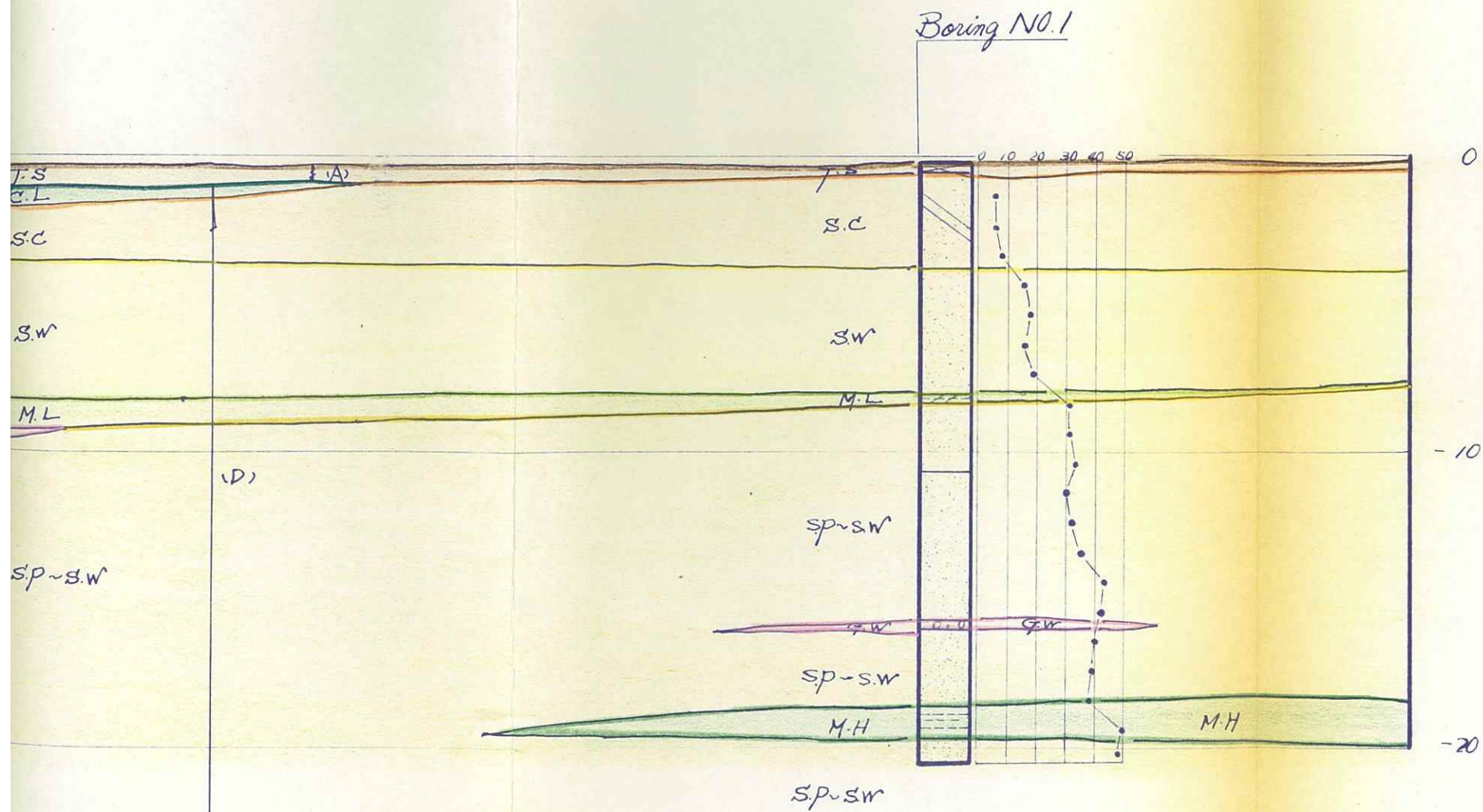


地質推定断面圖 Scale $\frac{V}{H} = \frac{1:200}{1:100}$



地質推定断面図

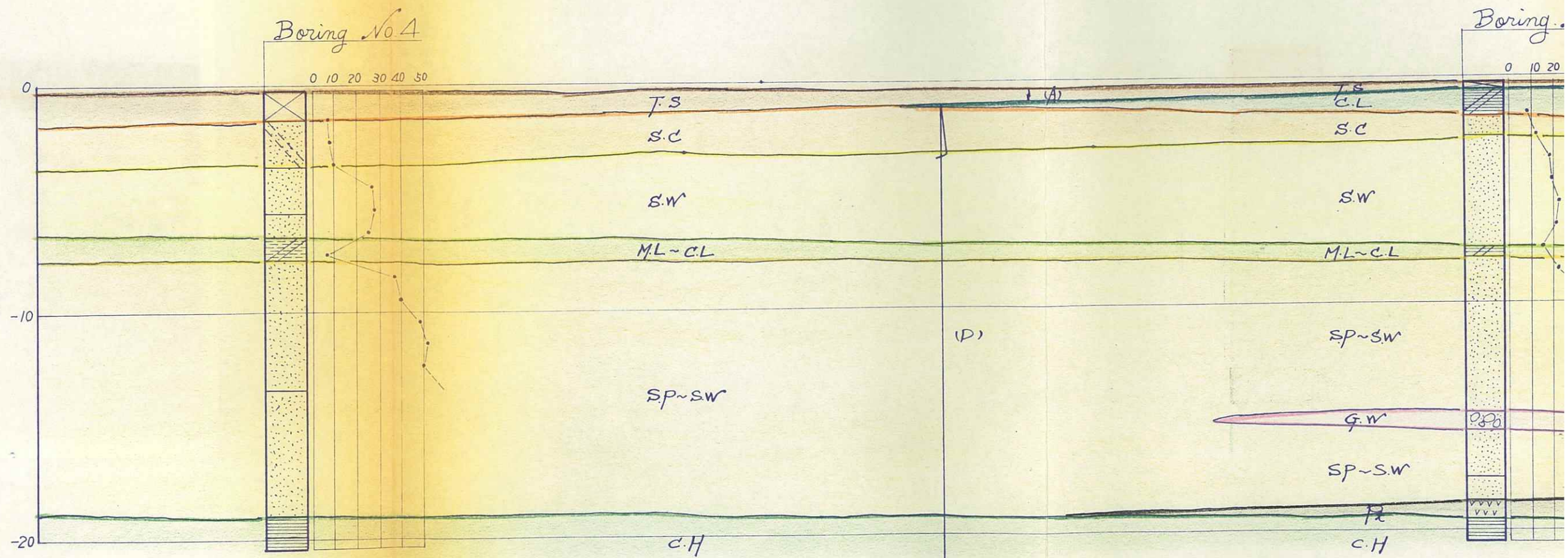
Scale $V = \frac{1}{200}$
 $H = \frac{1}{100}$



凡例

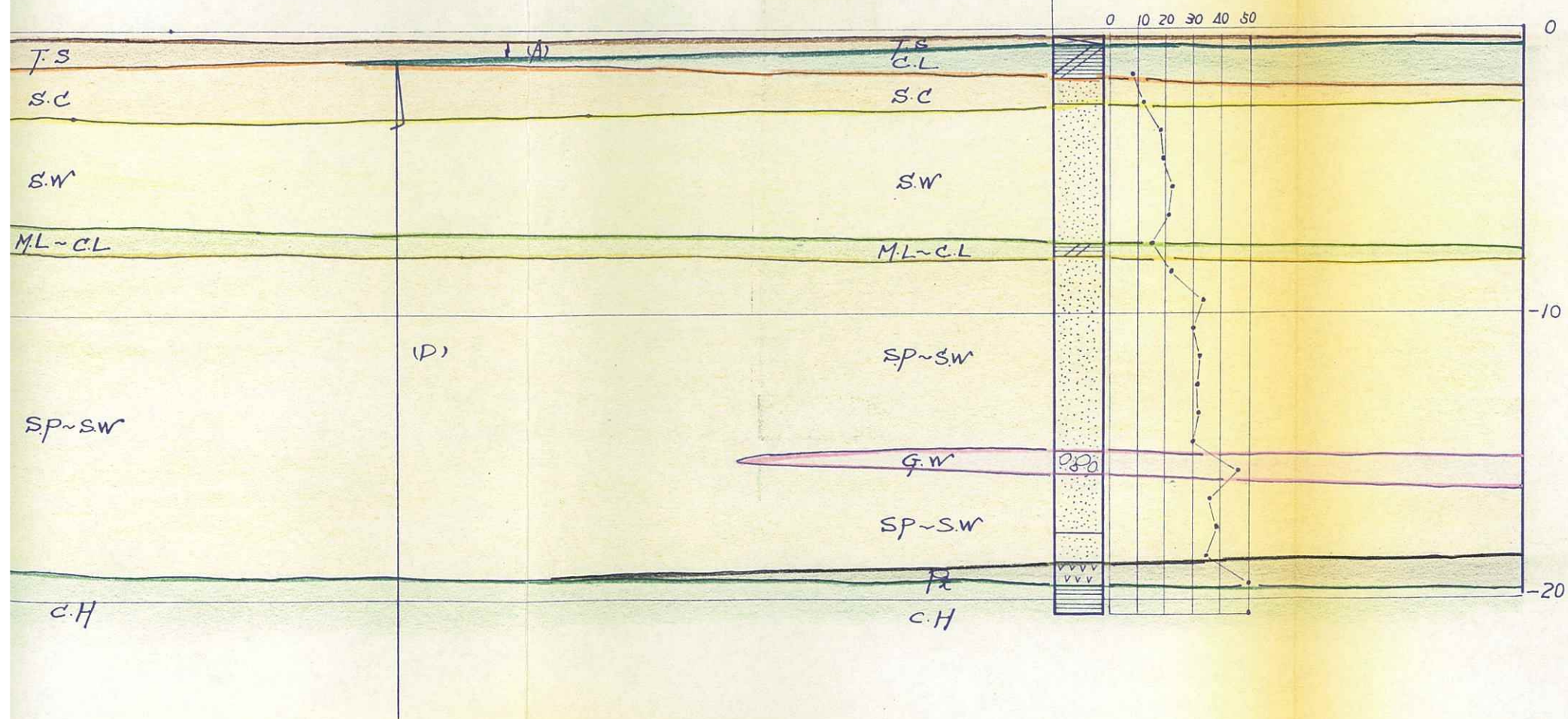
T.S	表土層	冲積層 (A)
C.L	砂質粘土層	
S.C	粘質砂層	洪積層 (D)
S.W	粗砂層	
M.L	砂質シルト層	
SP~S.W	細砂~粗砂	
G.W	砂礫層	
M.H	シルト層	

地質推定断面图 Scale $V = \frac{1}{200}$
 $H = \frac{1}{100}$



地質推定断面図 Scale $V = \frac{1}{200}$
 $H = \frac{1}{100}$

Boring No. 3



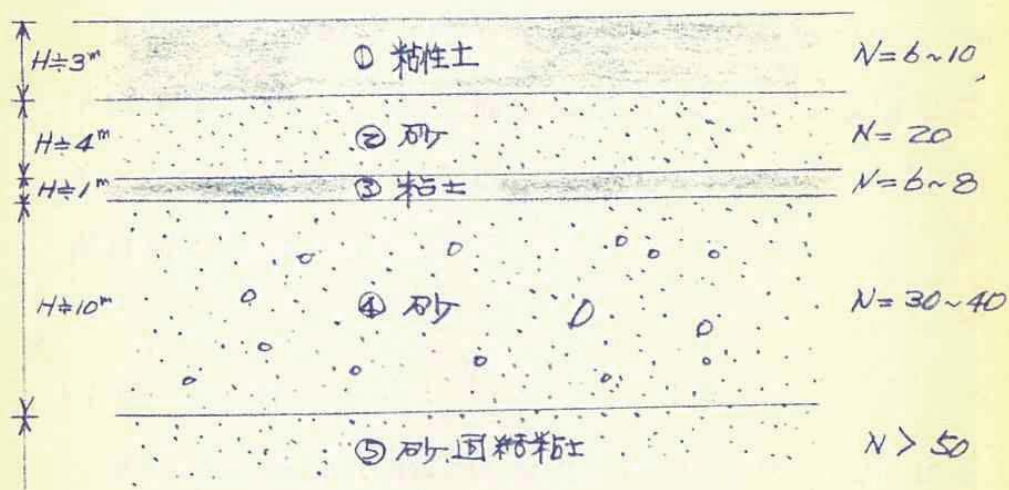
凡例

T.S	表土層	冲積層 (A)
C.L	砂質粘土層	洪積層 (D)
S.C	粘土混砂層	
S.W	砂質土層	
ML~CL	粘性土層	
SP~SW	細砂-粗砂	
G.W	砂礫層	
Pz	腐植土層	
C.H	粘土層	

(3) 地盤概要

本調査地は、衣浦湾奥東岸の台地に位置している。このあたりの地盤構成をしているものは、第四紀洪積世に属する段丘堆積層である。砂、礫、粘土層よりなっている。

即ち、調査の結果を模式的に図示すると、



これを簡単に説明すると、

① 粘性土

現地盤よりほゞ3 m位まで表土、粘土、粘土質砂層がみられた。標準貫入試験によるN値は6~10

を示す。

㊸ 砂 層

GL-3.00m以下に黄灰～茶褐色を呈する、粒子の比較的粗い砂層が層厚約4m位で堆積している。標準貫入試験によるN値は20回前後を示し、中位な相対密度を呈する。

㊹ 粘土層

GL-7～8m附近にうすい粘土層がみられた。層厚は1m以内で、1/6地点では0.20mで堆積している。標準貫入試験によるN値は6～8回と中位な相対密度を示す。

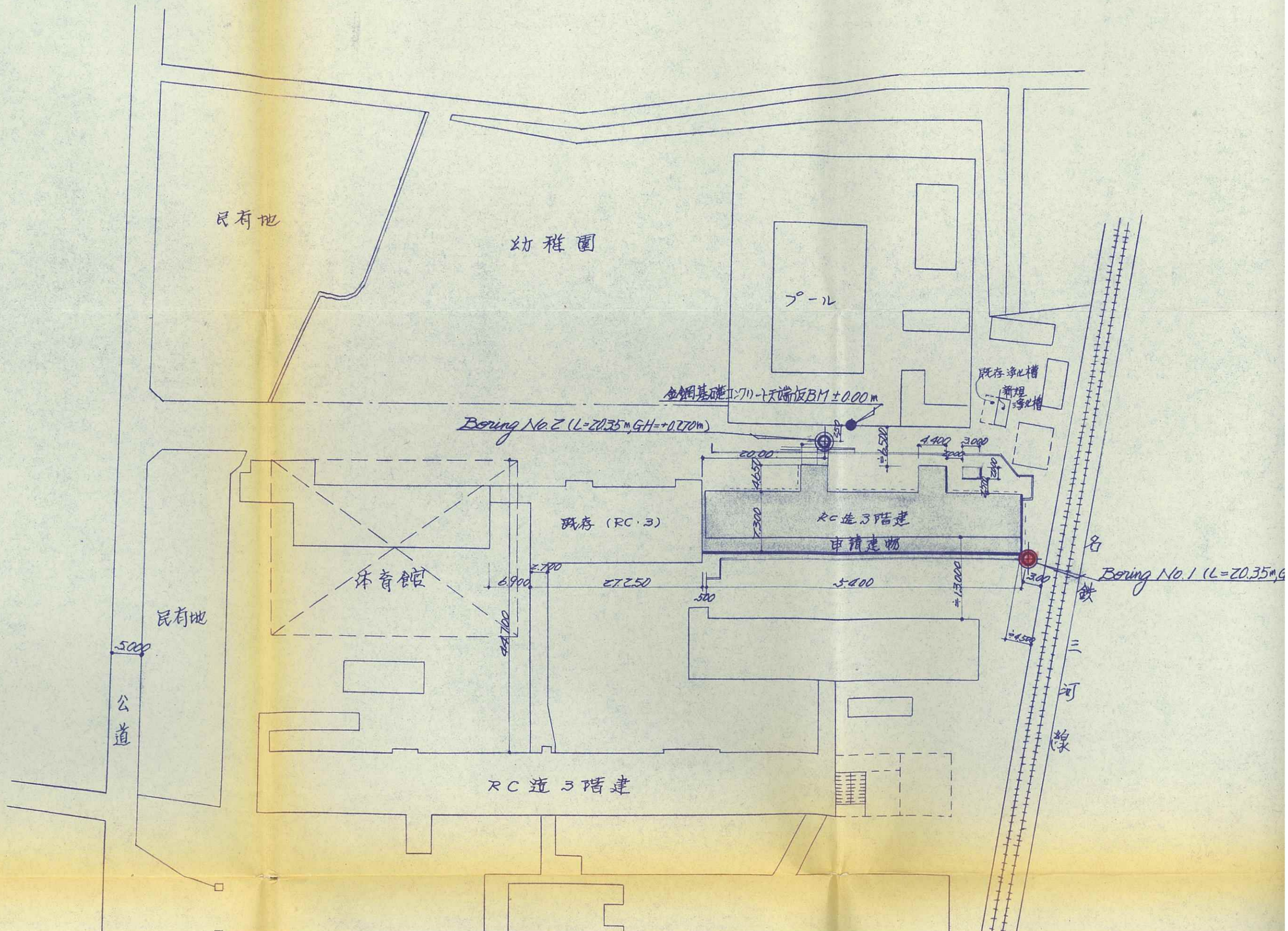
㊺ 砂 層

薄い粘土層の下部に灰褐色を呈する中～粗砂を主体とした砂層が、層厚約10mにて堆積している。砂礫層を挟んでいる部分もあり、全体的に小礫を混えている。標準貫入試験によるN値は30～40回示し、密な相対密度を示す。

㊻ 砂、固結粘土層

密な砂層の下部に、非常に密な砂層又は固結状の粘土層がみられた。No.2地点では固結粘土層は見られなかつた。又、固結粘土層には亜炭層が見られた。

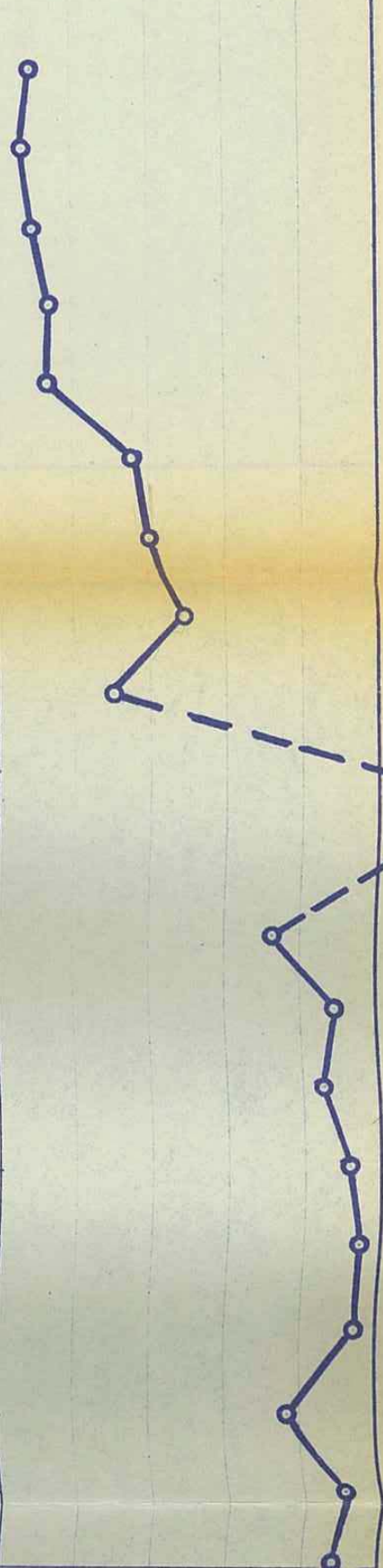
以上簡単に調査の結果について述べて見たが、詳細は土質柱状断面図、及び地質推定断面図を御参照下されたい。



調査位置 No. 1 孔

調査実施者

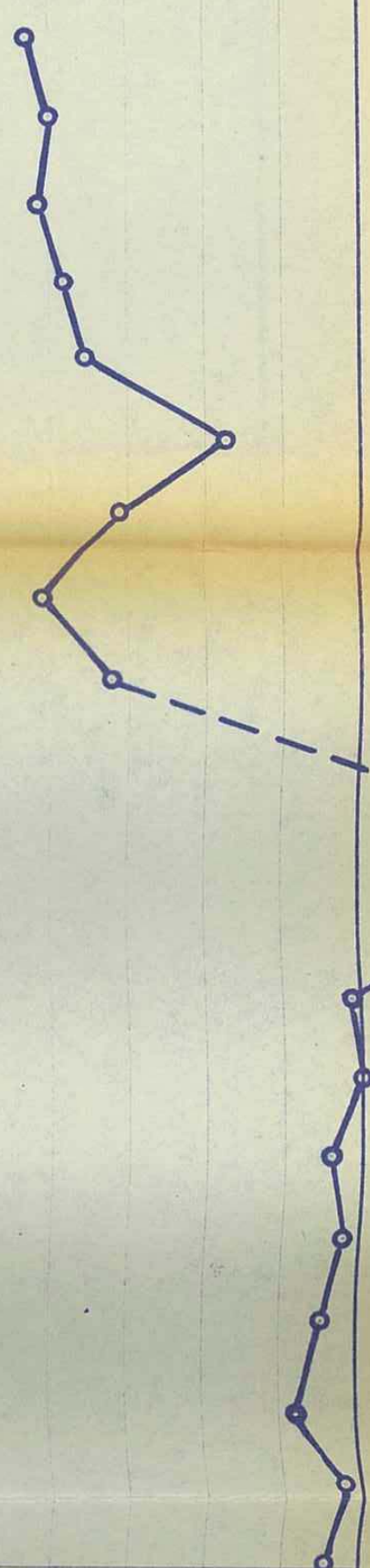
標尺 (m)	標高 (m)	深 (m)	層厚 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相對密度調度	孔内水位 (m)	試料採取位置	標本整理番号	標準貫入試験結果								
												N 値 (回)	10cm 毎 N 値			N 値折線図				
												0	10	20	30	10	20	30	40	
	+0.030	0.00					砂質ロム		0.00											
1					埋立土	褐灰	木片炭ガラ 砂混入好		1.00	1.30	1	4	2/11	1/9	1					
2	-1.870	1.90	1.90		砂質粘土	黄褐	%の透水剤 含水量小 粘性强		2.00	2.30	2	3	1/11	1	1/9					
3	-2.870	2.90	1.00		粗砂	褐灰	含水量小 粘性强		3.00	3.31	3	4/31	1	2/12	1/4					
4	-4.470	4.50	1.60		粗砂	褐灰	粘性强 含水量小		4.00	4.31	4	8/31	3	3/11	2					
5	-5.370	5.40	0.90		砂質粘土	褐灰	粘性强 含水量小		5.00	5.30	5	7	2	3	2					
6							含水量中 粘性强		6.00	6.30	6	18	4	6	8					
7					粗砂	黄褐灰	粘性强 含水量中		7.00	7.30	7	20	6	7	7					
8							粘性强 含水量中		7.90	8.00	8	23	7	8	8					
9	-9.170	9.15	3.75		砂質粘土	褐灰	粘性强 含水量小		9.00	9.30	9	15	6	5	4					
10	-9.870	9.90	0.75		砂質粘土	褐灰	粘性强 含水量小		10.00	10.21	10	50/21	20	26	4/1					
11							含水量大 粘性强		11.00	11.26	11	50/26	15	19	16/6					
12							粘性强 含水量中		12.00	12.30	12	37	10	13	14					
13							粘性强 含水量中		13.00	13.30	13	44	12	15	17					
14					砂混り粗砂	褐灰	粘性强 含水量中		14.00	14.30	14	42	11	16	15					
15							粘性强 含水量中		15.00	15.30	15	46	14	16	16					
16							粘性强 含水量中		16.00	16.30	16	47	15	14	18					
17							粘性强 含水量中		17.00	17.30	17	47	13	16	18					
18							粘性强 含水量中		18.00	18.30	18	39	11	13	15					
19							粘性强 含水量中		19.00	19.30	19	45	12	15	18					
20	-20.370	20.35	10.45				粘性强 含水量中		20.00	20.30	20	44	14	14	16					



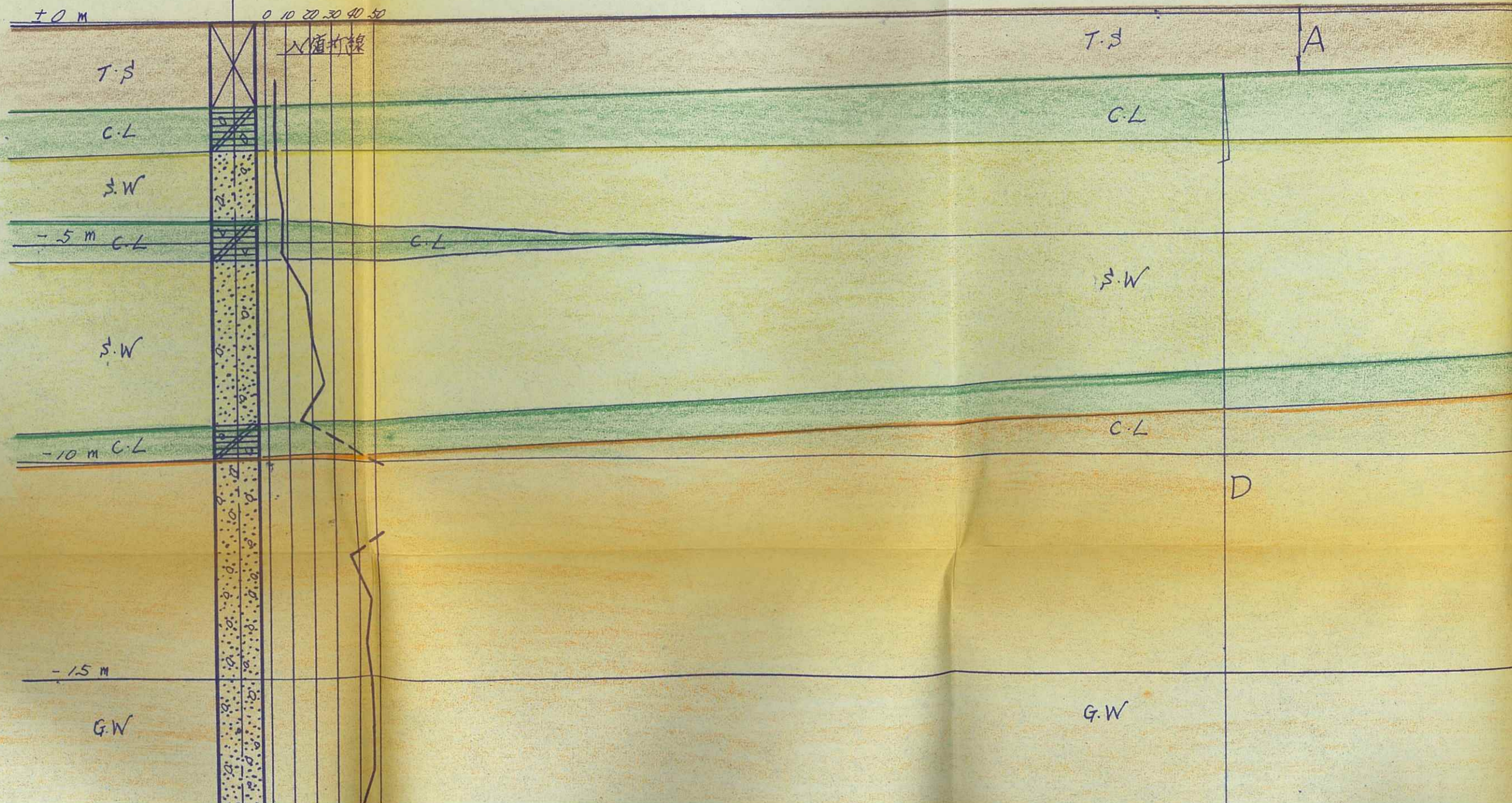
調査位置 No. 2 孔

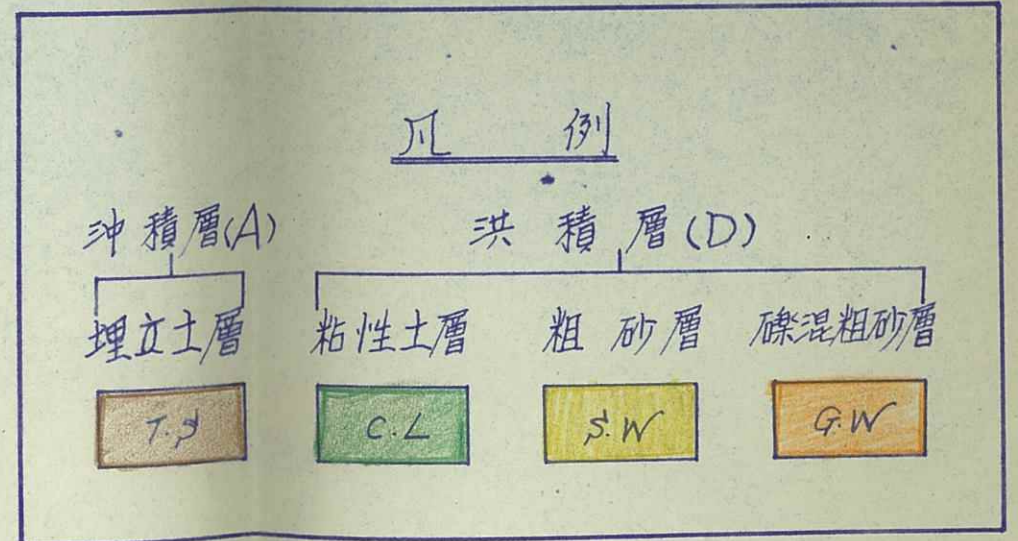
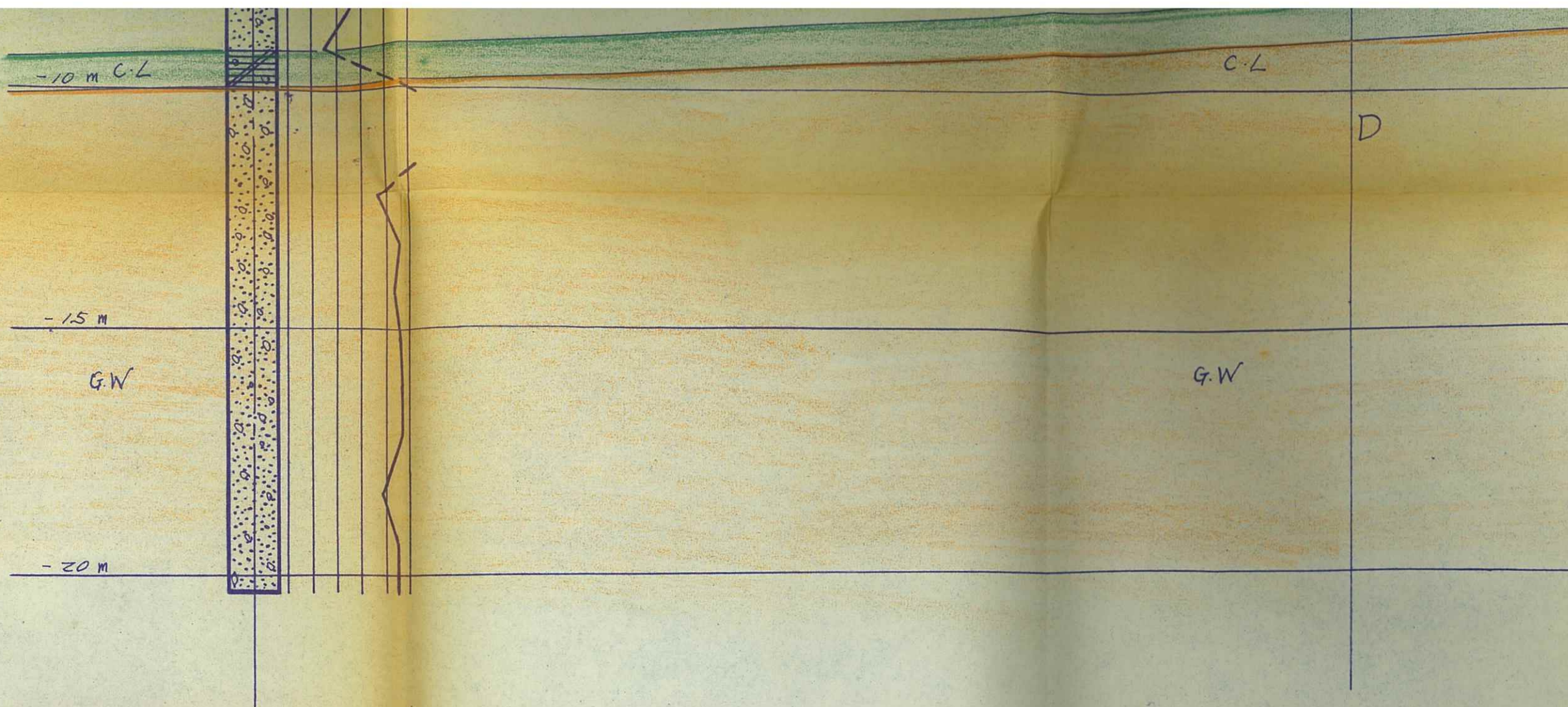
調査実施者

標尺 (m)	標高 (m)	深 (m)	層厚 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相對密度調度	孔内水位 (m)	試料採取位置	標本整理番号	標準貫入試験結果						
												N 値 (回)	10cm 毎 N 値			N 値折線図		
												0	10	20	10	20	30	40
										0.00								
1	-0.930	1.20	1.20		埋込土	赤褐	砂質ローム 木片、炭、細砂、 礫混入、 200% 以上			1.00	1	7	2	2	3			
2					砂質粘土	赤褐	含水量小 粘性中 腐蝕物少量混入			2.00	2	10	3	3	4			
3	-2.730	3.00	1.80				細砂混在			3.00	3	9	3	3	3			
4					粗砂	黄褐	含水量小 粒子不均等 細砂混在	中位		4.00	4	11	3	4	4			
5	-5.230	5.50	2.50				全体にシルト 少量混入			5.00	5	14	4	4	6			
6					粗砂	黄灰	含水量中 粒子不均等 細砂混在	密		6.00	6	32	9	11	12			
7	-7.230	7.50	2.00				全体にシルト 少量混入	中位		7.00	7	19	6	6	7			
8	-8.180	8.45	0.95		シルト質粘土	灰	含水量小 粘性大 腐蝕物少量混入	堅	8.30	8.00	8	9	2	3	4			
9							含水量大	中位		9.00	9	18	5	6	7			
10							粒子不均等			9.30								
11							φ2-10% 粗砂 φ15% 細砂 多量混入	極密		10.00	10	50/123	16	24	10/12			
12							多量混入			10.25								
13							礫、石英、斑岩等 多量混入			11.00	11	50/127	13	17	20/17			
14					礫混り粗砂	褐灰	崩壊性や 有			11.27								
15							崩壊性や 有			12.00	12	50/129	10	19	21/19			
16							崩壊性や 有			12.29								
17							全体にシルト 分微量混入	密		13.00	13	49	11	18	20			
18							全体にシルト 分微量混入	密		13.30								
19							全体にシルト 分微量混入	密		14.00	14	50	10	18	22			
20							全体にシルト 分微量混入	密		14.30								
21							全体にシルト 分微量混入	密		15.00	15	46	13	15	18			
22							全体にシルト 分微量混入	密		15.30								
23							全体にシルト 分微量混入	密		16.00	16	48	11	16	21			
24							全体にシルト 分微量混入	密		16.30								
25							全体にシルト 分微量混入	密		17.00	17	45	12	17	16			
26							全体にシルト 分微量混入	密		17.30								
27							全体にシルト 分微量混入	密		18.00	18	42	10	15	17			
28							全体にシルト 分微量混入	密		18.30								
29							全体にシルト 分微量混入	密		19.00	19	48	12	17	19			
30							全体にシルト 分微量混入	密		19.30								
							全体にシルト 分微量混入	密		20.00	20	45	11	16	18			
							全体にシルト 分微量混入	密		20.30								

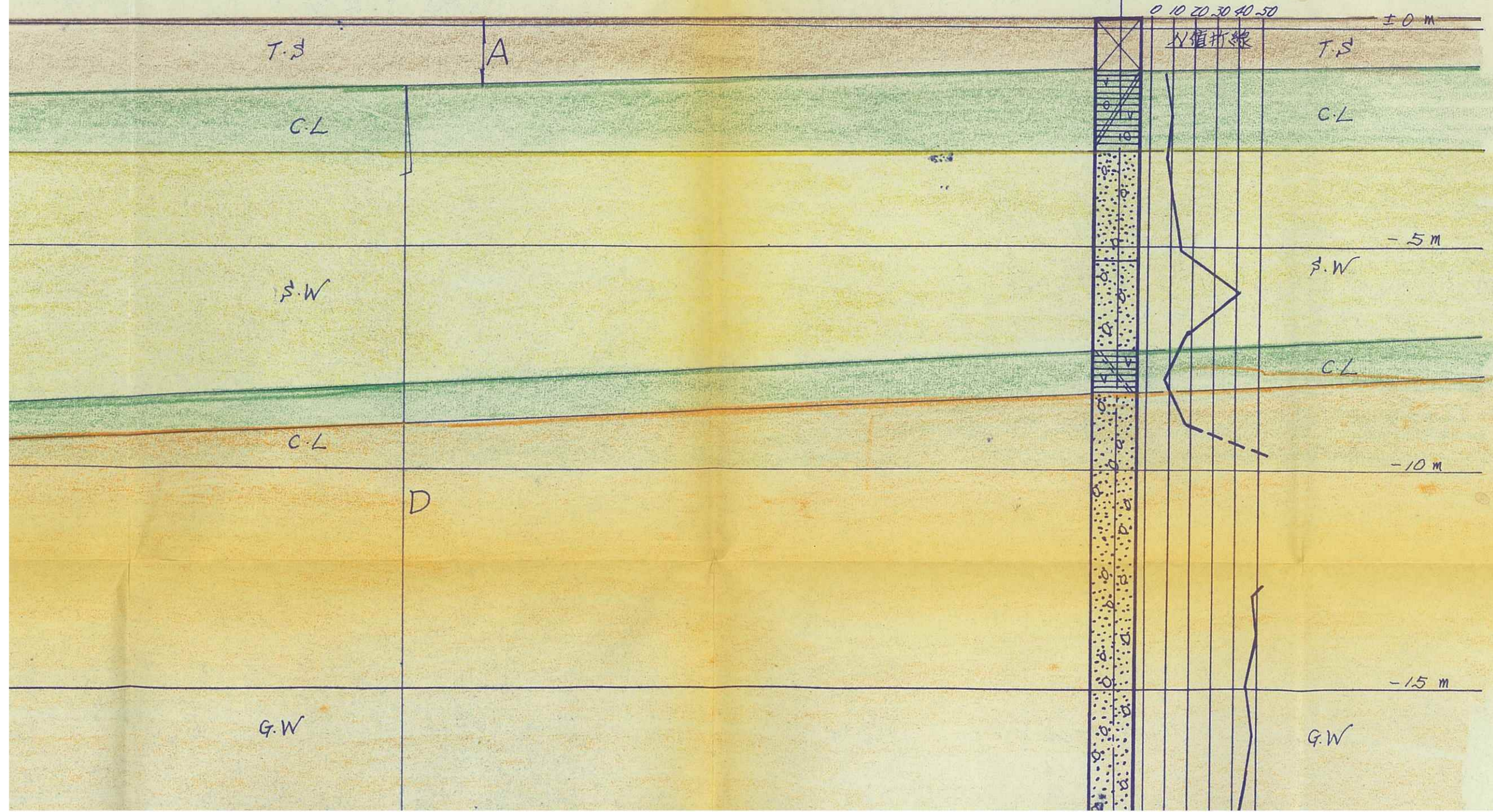


Boring No. 1 (L=20.35m, GH=+0.030m)





Boring No. 2 (L=20.35m, GH=+0.270m)



C-L

D

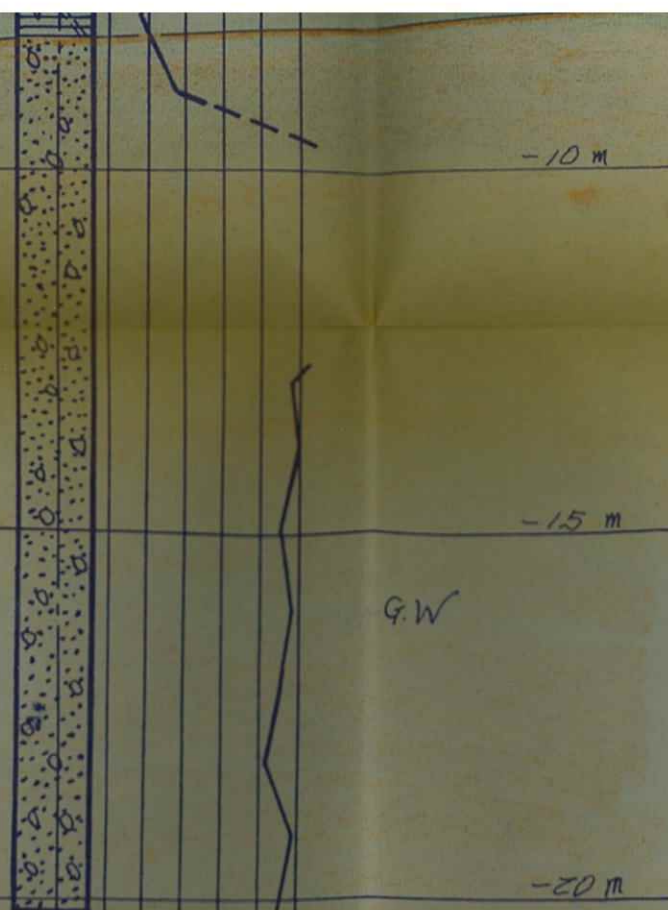
G.W

-10 m

-15 m

G.W

-20 m



凡例

沖積層(A)

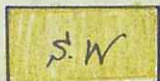
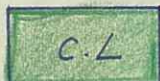
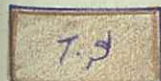
洪積層(D)

埋立土層

粘性土層

粗砂層

礫混粗砂層



工事名	高浜小学校校舎工期工事 の内地質調査				
図面名	地質推定断面図				
年月日	5.13.8.22	縮尺	100分之1		
承認	審査	設計	製図	複写	担当

(3) 地 盤 概 要

(A) 調 査 目 的

本調査は高浜小学校改築工事にあたり、建築物基礎地盤の地質の構成状態、並びに地盤の強度の判定を調べる事を目的としたものである。

(B) 地 質 大 要

本調査地は衣浦湾と名鉄三河線に挟まれた、名鉄たかほまみなと駅の西側に位置している。

この地域は主として衣浦港より東部の刈谷市、碧南市、安城市、西尾市などに渡つて広く台地状を呈しているノ部分であり、丘陵段丘地帯である。地質構成時代としては、新生代第四紀更新統に属する洪積地盤であり、このあたりでは碧海層と称されているもので、中位段丘を形成している。この碧海層は主に砂層からなつてシルトを挟有し、層厚は40mに及んでいる。比較的上部には砂層が卓越し、中部には細礫を交じえる礫質の粗砂層が発達しており、下部には海棲貝化石を含有する青灰の色調を呈する

中、粗砂が挟在する。

これは一般的な地層であるが、本調査地に於いては碧海層の下部砂礫層(LS)と最下部層(Lm)とに分類して、状況を述べて見る事とする。

(c) 地 質 の 層 序

a) 埋立土層(TS)

本地層はA₆1地点に於いては0.00m~1.90mの間、A₆2地点に於いて0.00m~1.20m間に分布するもので、砂質ローム層であり、色調は褐灰、赤褐を呈しており、混入物としては木片、炭ガラ、礫等を混入し、N値は3~7回と弛の相対密度を呈している。

b) 碧海層、下部砂礫層(LS)

① 砂質粘土(CL)

本地層はA₆1地点1.90m~2.90m間、A₆2地点では1.20m~3.00m間に分布するもので、含水量少なく、黄褐の色調を呈し、粘着性中位で、腐蝕物、細礫等を混入させており、標準貫入試験によるN値は3~10回と、柔~堅のコンシステンシーを呈し

ている。

㊤ 粗 砂 (SW)

本層はA₆1地点では2.90m~9.15mの間、A₆2地点に於いては3.00m~7.50m間に分布するもので、黄褐、褐灰、黄灰の色調を呈しており、含水状態小~半飽和で、粒度配合良好なもので、細礫点在している。尚、A₆1地点に於いて4.50m~5.40m間に粘着性の強い砂質粘土を挟んでいる。標準貫入試験によるN値は4~32回と、弛~密の中広い相対密度を呈している。

㊦ 砂質粘土 (CL)

A₆1地点に於いて9.15m~9.90m間、A₆2地点では7.50m~8.45m間に薄層で分布する。淡灰~褐灰の色調を呈するもので、粘着性強く、細礫、腐蝕物少量混入しており、標準貫入試験によるN値は9回と堅のコンシステンシーで、過圧密粘性土層である。

c) 碧海層、最下部層 (Lm)

㊧ 礫混粗砂 (SW)

本層は №1 地点では 9、90 m より、 №2 地点に於いては 8、45 m より最下層 20、35 m 迄続いて分布するもので、褐灰の色調を呈し、含水量は飽和状態となり、粒子は荒く、粒度配合は良好なものである。礫は $\phi 2 \sim 15 \text{ mm}$ の細礫多く、礫質はチャートを主体として石英斑岩、ホルンフェルス、硬砂岩のもので、全体に円磨されたものが多く分布している。又シルトを僅かではあるが含有しており、総体に崩壊性が見受けられた。標準貫入試験による N 値は、 №2 地点の 9、00 m の 18 回をのぞき 37 ~ 50 回以上と、密 ~ 極密の相対密度を呈している。

以上簡単に各層の地質の状況を述べて見たが、詳細は土質柱状断面図、地質推定断面図を御参照下さい。